

令和7年度 事業報告

事業報告書

(1) 概況

当年度の施設運営につきましては、当初の計画に沿って円滑に実施することができました。

入場者数は、延岡総合文化センターが119,854人、野口遵記念館が94,794人となり、2館合わせて214,648人(前年比4,749人増)、開館以来の延べ入場者数は7,965,107人となりました。

各施設の利用率については、延岡総合文化センターでは、ホール全体で46%(大ホール44%、小ホール48%)、練習室68%、展示室50%、会議室関係45%となっております。

また、野口遵記念館では、ホールが66%、フリースペースが62%の利用率となっております。

施設の利用料金収入については、延岡総合文化センターが25,658,090円、野口遵記念館が16,648,480円、2館合わせて42,306,570円となり、前年比で1,993,880円の増収となりました。

(2) 施設の管理について

施設の管理につきましては、専門業者による定期的な保守点検等により万全を期しておりますが、延岡総合文化センターは建築後40年を経過し、各種設備・機器の老朽化に対応した計画的な改修が必要になっております。このため、今後予定されている長寿命化計画を念頭に置きながら、市所管課の指導の下適切な対応に努めてまいります。なお、当年度は、市の改修工事として冷却塔充填材等更新、大ホール舞台床補修、地下揚水ポンプ設備更新等を行いました。一方、野口遵記念館においては、市の改修工事はありませんでしたが、修繕的処置としてフリースペースB床埋込照明の取替え、映写機の塗装などを行いました。

今後とも、日常的な見回り点検等を通じて施設の適切な維持管理に努め、利用者の皆さんに安全で安心してご利用いただける環境づくりを進めてまいります。

(3) 自主文化事業について

当年度は、野口遵記念館にぎわい創出と集客促進アピール事業(13件)を含む、計40件の自主文化事業に取り組みました。クラシックからポピュラー音楽、演劇やお笑いなど幅広いジャンルの公演に加え、本格的なオペラ公演や文化センター開館40周年記念行事などに取り組み、昨年度以上に幅広い世代の方々にご来場いただきました。

当年度の自主文化事業の入場者数は 35,484人(前年比10,435人増)、収入は52,938,792円(前年比41,474,315円増)、支出は53,405,998円(前年比32,068,186円増)となっております。実質的な収支は 467,206円の赤字となりました。

また、月刊情報誌「じゃがじゃがのべおか」や延岡総合文化センター及び野口遵記念館のホームページの充実と努めるとともに、SNSを活用した情報発信や小中学校の保護者案内メールの活用等にも積極的に取り組み、幅広い年齢層への情報提供に努めました。